

指導資料

家庭 第43号

鹿児島県総合教育センター
平成29年10月発行

対象
校種

小学校 義務教育学校 特別支援学校

生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を目指す小学校家庭科学習指導

小学校家庭科では、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指している。そこで、生活の中から課題を発見し、解決方法を検討する学習過程を通し、家庭生活等での実践につなげる学習指導を、実践例を通して紹介する。

1 はじめに

平成24年度に行われた小学校学習指導要領実施状況調査から、家庭科の学習が生活する上で必要な力を身に付けるために役立つと回答した児童はおよそ9割(図1参照)で、学習への有用感が高いという成果が見られた。

一方、平成28年12月に示された中央教育審議会答申では、上記の成果と併せ、家族の一員として協力する事への関心が低いこと、家庭での実践が十分でないことなどに課題が見られるとしている。

2 生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成

平成29年3月に公示された小学校学習指導要領において、家庭科は次のように目標を改められている。

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常生活の中から問題を見だして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) 家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

(下線は筆者による)

◆多くの児童は、家庭科の学習が調理や製作など生活に必要な力を身に付けることに役立つと捉えている。

○ 家庭科の学習は、調理や製作など生活に必要な力を付けるために役立つと思いますか。

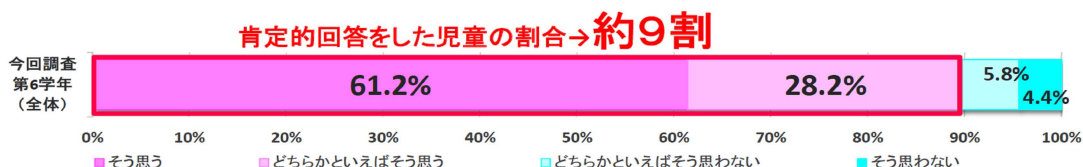


図1 家庭科の学習への有用感 (平成27年11月「教育課程部会家庭科、技術・家庭科ワーキンググループ部会資料」から)

生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することは、家庭科の目標であり、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎を育成することを目指すことである。そこで、家庭科の学習では、家庭生活や地域での実践につなげることができるよう、実生活と関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れ、教科全体の資質・能力を育成することが重要である。

3 生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成するための学習指導

(1) 学習過程の工夫

家庭科の学習過程は、まず、生活の中から課題を設定した後、生活に関わる知識・技能を習得し、解決方法を検討する。次に、解決の見通しをもち、計画を立て、その後、生活に関わる知識・技能を活用して、調理・製作等の実習や調査・交流活動など課題解決に向けて実践活動を行う。実践の結果は評価し、検討した改善策については、家庭や地域で実践する。前項(2)の目標は、このような一連の学習過程を通して資質・能力を育成することを明確にしたものである。ただ、各学校では、児童の状況や題材構成等に応じて工夫することが必要である。

例えば、図2のように学習過程を工夫するこ

とで、児童が課題を解決できた達成感や充実感、家庭や地域で実践する喜びを味わい、次の学習に主体的に取り組むことができるようにする。このことは、児童一人一人が生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することにつながるものである。

(2) 指導計画の工夫

表は、図2の学習過程を取り入れて作成した題材の指導計画の例である。

教師は、指導計画を作成する際、児童が学んだことを自分の生活と関連付けて考え、気付き、実践につなぐことができるような学習活動を位置付け、そのための具体的な働き掛けを示しているか留意する。児童が家庭科で習得する知識が、学ぶ過程で既存の知識や生活経験と結び付き、学習内容の本質を深く理解するための概念として習得され、家庭や地域など様々な場面で活用することは、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する上で、特に前項(1)の目標が意図していることである。

表では、家庭での実践計画を立てる学習活動を設定しているが、課題の解決に向けて、これまでの学習で身に付けた知識や技能を活用し、自分の生活の問題とを関連付け、家庭での実践に生かすことができるようにしている。

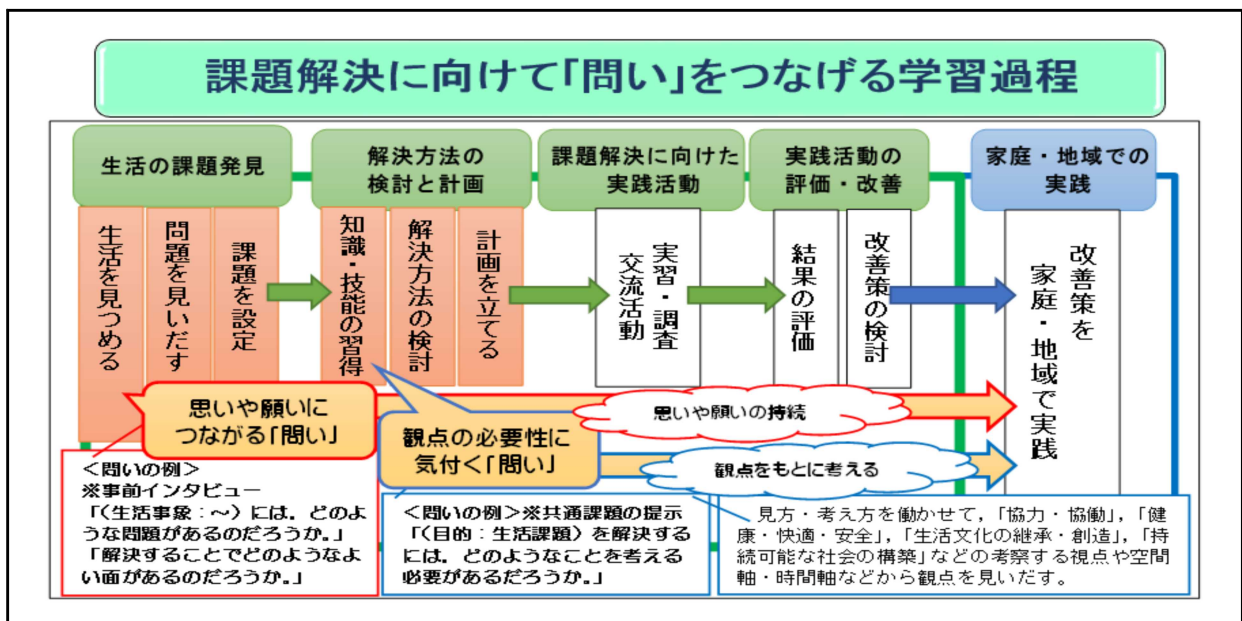



図2 鹿児島大学教育学部附属小学校が捉える学習過程 (平成29年5月鹿児島大学教育学部附属小学校公開研究会家庭科実践研究資料から)

表 指導計画例 第5学年 題材「気持ちよく生活しよう～すっきりぴかぴか大作戦～」（全10時間）

〈題材の目標〉 家庭における整理・整頓や清掃の問題に気づき，気持ちよく生活できる住まいに関心をもち，自分の住まいを整えていこうとすることができる。

学習過程	時	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
生活の課題発見	①	1 自分の生活を振り返り，生活の問題から自分の課題を設定し，本題材の学習テーマを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 気持ちよく生活できる整理・整頓や清掃の工夫を提案しよう。 </div>	○ 生活の問題に気付くことができるようにするために，整理・整頓や清掃をしないことでどのような問題が起こるのかを問い，自分の課題を設定させる。
	②	2 共通場面から整理・整頓や清掃の問題を見いだすための観点について考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> ・機能面や安全面などの観点から捉えた整理・整頓の問題 ・健康面や環境面などの観点から捉えた清掃の問題 </div> <p style="text-align: center;">【写真参照】</p>	○ 生活の問題を捉えさせるために，整理・整頓や清掃の具体的な共通場面を提示し，問題の観点を見いだし，観点をもとに生活の問題を捉え直させる。
解決方法の検討と計画	③	3 整理・整頓の課題別グループに分かれ，	○ 目的に応じた整理・整頓の工夫を考えることができるように，場所ごとの課題別グループを編成する。その際，観点に応じた問題点の解決策を情報交換する場を設け，自分の問題の解決策を明らかにさせる。
	④	4 解決策について話し合い，課題を追求し，	
課題解決に向けた実践活動	⑤	5 情報交換を行い，よりよい整理・整頓の工夫について考える。 	○ 汚れに応じた清掃の必要性に気付くことができるように，場所ごとに環境面や消費面などの観点から清掃の工夫について考えさせる。
	⑥	6 清掃の課題別グループに分かれ，解決策について話し合い，課題を追求し，情報交換を行い，よりよい清掃の工夫について考える。	
実践活動の評価・改善	⑦	7	○ 整理・整頓や清掃の工夫について学んだことと自分の生活の問題とを関連付け，実践計画を立てさせる。
	⑧	8	
家庭・地域での実践	⑨	9 よりよい整理・整頓や清掃について追求したことをもとに，家庭での実践計画を立てる。 	○ 達成感や充実感を味わうことができるように，家族からのコメントをもらうようにする。
	⑩	10 家庭での実践報告会を行う。また，下級生へ向けて学校でできる整理・整頓や清掃の工夫を提案する。	

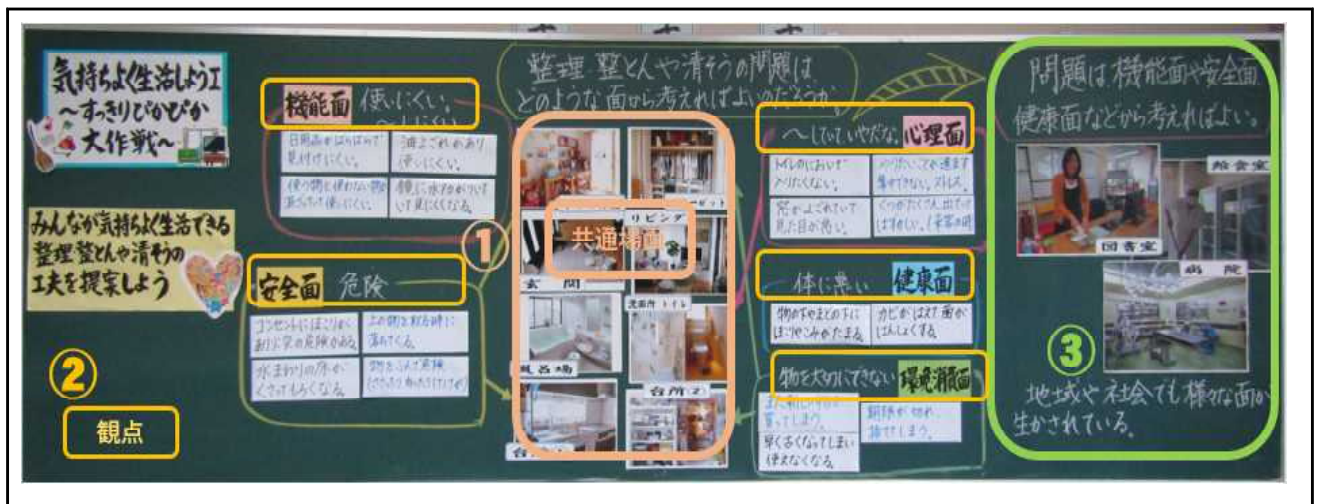


写真 第5学年 題材「気持ちよく生活しよう～すっきりぴかぴか大作戦～」第2時の板書例

(平成29年5月鹿児島大学教育学部附属小学校公開研究会家庭科研究授業 日高 佳奈 教諭の板書を基に作成)

(3) 実践的・体験的な活動の充実

家庭科では、目標に「実践的・体験的な活動を通して」と示されているように、生活の自立の基礎を培うため、従来から実践的・体験的な活動を重視している。

指導に当たっては、児童が学習の中で習得した知識及び技能を生活の場で生かせるよう、児童の実態を踏まえた具体的な活動を設定することが必要である。その際、学習のねらいを考慮するとともに、調理、製作などの実習や、観察、実験、交流活動など、それぞれの特徴を生かした適切な活動を設定し、指導の効果を高めるようにする。

写真の板書例は、表の第2時「解決方法の検討と計画」である。共通場面として、改善が必要な家庭にある台所の食器棚や風呂場などの写真を提示(①)し、問題点について話し合わせる。そこで、見いだした機能面や健康面といった観点(②)を基に、自分の生活の問題点を捉え直す(③)。ここで見いだした観点が、よりよい整理・整頓や清掃の仕方の工夫をすることにつながると気付くようにする。このことが、自分だけでなく、家族や地域の人々にとってよりよい生活とはどのようなものかを考え、実践することにつながる。実践的・体験的活動の充実を図る上で、児童に生活の問題を気付かせ、見通しをもたせることは大切である。

また、家庭や地域での活動で得られた実践する喜びは、知識及び技能を習得する意義を実感する機会であり、さらに、失敗や困難を乗り越え、やり遂げた成徳感、自分への自信にもつながる。すなわち、学習意欲を向上させる観点からも、実践的・体験的な活動を重視する必要がある。

4 おわりに

児童が家庭科で身に付ける生活をよりよくしようと工夫する資質・能力は、家族の一員として、衣食住を中心とした生活の営みを大切にしようとするにつながり、生涯にわたって家庭生活を支える基盤となるものである。

—引用・参考文献—

- 文部科学省『小学校学習指導要領解説家庭編』平成29年
- 中央教育審議会教育課程部会『家庭科、技術・家庭科家庭分野ワーキンググループ審議の取りまとめ』平成28年8月
- 中央教育審議会教育課程部会『家庭科、技術・家科ワーキンググループ部会資料』平成27年11月
- 鹿児島大学教育学部附属小学校公開研究会家庭科実践研究資料 平成29年5月
- 鹿児島大学教育学部附属小学校公開研究会家庭科学習指導案 平成29年5月 (企画課 当房 孝子)

